



平成 21 年 10 月 26 日

各 位

会 社 名 ジェイ・エスコムホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 丁 廣鎮
(J A S D A Q ・ コード 3 7 7 9)
問合せ先 業務管理統括本部
課長 北原 昭夫
(電話 03-3507-6350)

業績予想の修正に関するお知らせ

平成22年3月期第2四半期（平成21年4月1日～平成21年9月30日）及び通期（平成21年4月1日～平成22年3月31日）の業績予想について、平成21年5月8日付当社「平成21年3月期決算短信」にて公表しました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成22年3月期 連結業績予想の修正等

(1) 第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 458	百万円 △33	百万円 △14	百万円 △14	円 銭 △0.24
今回修正予想 (B)	340	△70	△60	△58	△0.96
増減額 (B-A)	△118	△37	△46	△44	
増減率 (%)	△25.8	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	276	△90	△85	△80	△1.32

(2) 通期連結累計期間（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 1,699	百万円 10	百万円 47	百万円 47	円 銭 0.78
今回修正予想 (B)	1,581	△27	2	3	0.06
増減額 (B-A)	△118	△37	△45	△44	
増減率 (%)	△6.9	—	△95.7	△93.6	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	628	△180	△153	△141	△2.31

2. 平成22年3月期 個別業績予想の修正等

(1) 第2四半期個別累計期間（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 24	百万円 △30	百万円 △30	百万円 △30	円 銭 △0.49
今回修正予想 (B)	28	△34	△34	△34	△0.57
増減額 (B-A)	4	△4	△4	△4	
増減率 (%)	16.7	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	24	△44	△44	△44	△0.72

(2) 通期個別累計期間 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	48	△57	△57	△57	△0.93
今回修正予想 (B)	64	△49	△49	△49	△0.80
増減額 (B - A)	16	8	8	8	
増減率 (%)	33.3	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成21年3月期)	48	△85	△84	△85	△1.39

3. 修正の理由

(1) 連結業績予想

当社グループでは、営業コストにおける費用対効果の徹底した見直しや在庫保有リスクを回避するビジネスモデルの採用など、内部統制基準に適合する体制の整備を進めつつ収益体質の改善を図り、今期下半期でのM&A成立を目指して参りました。

セグメント別には、商事事業の柱である株式会社ウエルネスの理美容商品販売事業の売上は好調だったものの、在庫商品につき正味売却価額の見直しを行い、評価額の切り下げを行った結果、当初予想していた営業利益を下回りました。海外商事事業につきましては、中国企業とのビジネスを模索する日本企業のコンサルティング等を行うことにより収益を得る体制を目指して参りましたが、第2四半期時点では収益を得るに至りませんでした。

教育事業につきましては、多大な在庫を抱えるビジネスモデルから脱却し、企業教育コンサルティングでの収益拡大へと事業体制の整備を進めておりますが、営業担当社員に対する社内教育の遅れなどの原因から収益拡大には結びついておりません。

衛星放送事業につきましては、概ね予想通り推移しております。

また、持分法適用会社である株式会社モール・オブ・ティーヴィーの売上が当初予想よりも低い水準に留まり、計画を下回る要因となりました。

こうした理由から、第2四半期における連結業績予想について、売上高を前回発表予想より118百万円減少し340百万円（前回予想比25.1%減）に、営業利益を37百万円減少し△70百万円に、それぞれ下方修正いたします。通期業績予想についても同様の理由から修正を行い、売上高は前回発表予想1,699百万円から1,581百万円（前回予想比6.9%減）に、営業利益10百万円は△27百万円へと下方修正いたします。

(2) 個別業績予想

当期において、当社と子会社との間で新たにコンサルティング契約を締結したことによりコンサルティング報酬が増加いたしました。この結果、第2四半期個別業績予想における売上高は28百万円（前回予想比16.7%増）に、通期個別業績予想についても同様の理由から64百万円（前回予想比33.3%増）に、それぞれ修正いたします。

※ 業績予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

以上